パートナーシップ・トーク

林 美帆（はやし みほ）

公益財団法人公害地域再生センター（あおぞら財団）研究員・博士（文学）
学生のころから西淀川公害訴訟の資料整理に携わり、大学院在学中に資料館設立のためにあおぞら財団の職員に。資料の電子化・公開や、公害地域の今を伝えるスタディツアーの実施など、公害を伝えることを模索中。編著『西淀川公害の40年』（ミネルヴァ書房、2013）など。

公害資料館をつなげる

「公害」と聞くとどのようなことをイメージするでしょうか。過去のことだと認識している人も多いと思います。けれど実際には、公害は過去の問題ではなく、訴訟が継続していたり、地域にリスクが残されたままになっています。被害地では今でも、公害の経験を伝え、まちづくりをする活動が続けられ、公害の解決を図っているのです。ところが、これらの活動の交流が今までなされていませんでした。

そこで、昨年度、「平成25年度地域活性化を担う環境保全活動の協働取組推進事業」を活用して「公害資料館ネットワーク」を結成し、同年12月7日、8日に新潟にて公害資料館連携フォーラムを開催しました。これまで各地で独自に活動していた90人余が集い、交流しました。「仲間がいる！」と出会った喜びはひとしおでした。「公害を伝える」と一言でいっても、公営と民営の視点の違い、フィールドワークやまちづくりの視点があることなど、色々な切り口があることを知りました。また、展示を作るにしても「参加型」の方法があることも新しい発見でした。そして、なによりも公害を伝える人たちが熱を持って取り組んでいることに希望を感じたのです。

この交流によって、さまざまな切り口で公害を伝えることができそうだという希望を共有できたことは大きかったのですが、まだ成果を積み上げて共有するまでは至っていません。今年は、富山で「企業とのかかわり方」をテーマにして議論を積み上げる予定にしています（12月5日～7日）。各地で多面的に公害を伝えられる未来を描いていきたいです。

筒井 一郎（つつい いちろう）／イアン

株式会社ヌールエ　代表取締役（プロデューサー＆アートディレクター）
1997年より総合プロデュースしたオリジナルコンテンツ「動物かんきょう会議」が2014年に環境省ESD環境教育モデルプログラムに採択される。2002年に絵本シリーズが全国図書館協議会選定図書。2010年にアニメシリーズがNHK教育TVで全国地上波放送される。

協働によって完成した「動物かんきょう会議」

「動物になって考えよう！」が活動コンセプトの動物かんきょう会議プロジェクトは、1997年の地球温暖化防止京都会議COP3をきっかけに誕生しました。2002年に絵本マガジンを発行し、生物多様性名古屋会議COP10にタイミングを合わせてつくったアニメシリーズを2010年にNHK教育TVで放映しました。わたしたちは、個性的な動物キャラクターが活躍する絵本とアニメで、世界の子供たちに「相手の立場にたって環境問題を考え、話し合うキッカケ」を提供できると考えたのです。

2012年に公益財団法人オイスカとの出会いにより大きなターニングポイントを迎えます。オイスカが支援するタイ、インド、インドネシア、フィリピン、フィジー5カ国の12才の子供たちを日本に招聘した際、「動物キャラクターを創り、自国の環境問題を他の国の子供たちにプレゼンテーションする」ワークショップを共同開催しました。子供たちが創るキャラクターは個性的で、その物語はとてもリアリティがあったのです。

その後、世界の12才の子供たちとクリエイトした動物キャラクターたちを主人公にし、彼らが語った問題意識を原案に脚本を制作し、オイスカの植林活動を紹介する「世界の森のおはなし」（3カ国）が2014年春に完成しました。

今後は、オイスカとのパートナーシップによって誕生した「問題提起型コンテンツ」に、リアルな世界「課題解決型アクション」がつながってくることでプロジェクトの可能性を広げる予定です。